

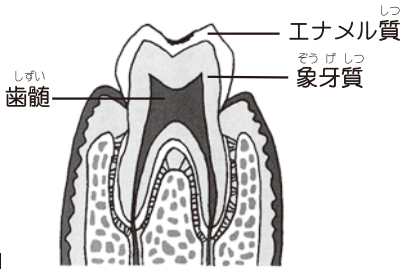
歯のはなし



むし歯の進み方

むし歯のことを歯科用語では“カリエス”と呼びます。そして、むし歯の大きさによってC0、C1、C2、C3、C4（Cとは「カリエス」の頭文字を表します）の5段階に分けられ、進行状況を判断する目安になっています。そこで今回のこのコーナーでは、知れば役立つ！“虫歯の進み方”についてご紹介していきたいと思います。

C0 【シーオー】



先にもお話ししましたが、むし歯の進行はC0、C1、C2、C3、C4といった5段階で表しますが、一番はじめのごく初期むし歯のことを“C0”といいます。この段階では、歯の表面のエナメル質が透明感を無くして白く濁ってきますが、まだ歯にも穴が開いていない状態なので、自覚症状もありません。C0では歯医者は積極的な治療は行わず、観察していく段階です。それまでの習慣をあらため、よく歯をみがき、甘いものをひかえるなどの対策をすれば、歯は再石灰化して治療する必要がなくなります。

C1 【シーイチ、もしくはシーワン】



この段階は、歯の表面の“エナメル質”だけがむし歯になっている状態です。歯に小さな穴ができ、茶色に変色したり黒っぽくなりますが、とくに痛みはありません。この時に治療をすれば、痛みもなく簡単な治療で終わらせることができます。

C2 【シーニ、もしくはシーツー】



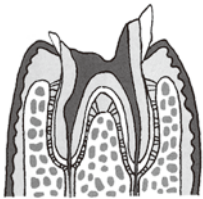
この段階は、むし歯がエナメル質をこえて“象牙質”にまで達した状態です。むし歯が進み象牙質の中までおかされると、冷たいものや熱いもの、時には酸っぱいものなどもしみて痛むようになります。「虫歯ができた」と本人が気づくのはこの時期くらいからですから、気づいたらできるだけ早めに歯医者で治療を行いましょう。

C3 【シーサン、もしくはシースリー】



この段階は、むし歯が歯の歯髄（神経や血管の通っている中心部分）にまで達した状態です。歯髄は歯の心臓部で歯の健康を維持する大切な部分ですから、むし歯が歯髄まで達すると歯はズキズキと痛み出します。様々な食べ物がしみるばかりでなく、夜寝ているときにもひどく痛んだりもしますから、がまん強い方でも断念して歯医者通いを決意するのもこのころでしょう。この段階での治療は、歯髄を抜いてから歯につめ物やかぶせ物をします。

C4 【シーヨン、もしくはシーフォー】



見える部分の歯がほとんどなくなってしまいうまで進んだむし歯の場合、すでに歯髄は死んでしまっているため痛みは感じません。しかし、放っておくとむし歯菌が血液中に入り込んで健康をおびやかしますから、この段階での治療は、歯を抜くこととなります。もし、根がしっかりしている状態であれば根の治療をしてかぶせ物を被せる場合もあります。

“虫歯がC1→C2→C3…と進むのにどれくらいの時間がかかるの？”というのは気になるところですが、これはかなり個人差がありますので一概には言えません。何年もかかる人もいれば、ほんのわずかな期間でどんどん進んでしまう人もいます。虫歯はいったん発生すると決して自然に治ったり進行をやめたりはしてくれず、必ずこのような経過をたどって進んで行きますので、「歯がしみる」と感じた場合、歯の治療が必要かもしれないので、なるべく早く受診して症状を食い止めることが大切です。